

## 調 査 内 容

I	調 査 地	<b>静岡県袋井市</b> 人口86,859人 面積108.56km <sup>2</sup> (H24.4.1現在)
	調査月日	平成25年5月21日(火)
	調査事件	避難施設整備事業について
	概 要	<p><b>(1) 民間事業者の施設を活用した津波避難施設整備について</b></p> <p>避難場所の確保対策として、民間施設活用目標を20施設と定め、平成23年10月末には累計で18施設となり、平成25年3月末に、民間事業所11施設(2,254人)と共同住宅9施設(404人)の計20施設で収容人数が2,658人となった。その後、平成25年5月末には、民間事業所1施設(117人)が整備され、累計21施設、収容人数が2,775人となった。</p> <p><b>(2) 民間の津波避難施設指定の協定について</b></p> <p>民間との津波避難施設の協定は、市内の海拔5m以下の地域で、新耐震基準を満たし、避難場所が海拔10m以上あり、避難者が直接避難場所に避難できる構造を条件としている。ほとんどの企業等の協力が得られ、残り1施設だけとなっている。</p> <p><b>(3) 津波一時避難施設(きらりんタワー・浅羽南小学校)の整備について</b></p> <p>津波一時避難施設のきらりんタワーの建設は、平成23年12月に浅羽南幼稚園の保護者が中心となり、約2,000名の署名を集め、津波避難タワー建設等の要望書を市長に提出し、平成24年12月に浅羽海岸から約1.3kmに高さ海拔12m、約270人が収容できる津波避難場所として整備された。また、浅羽南小学校には、平成24年3月に改修工事が行なわれ、外階段を2か所設置して、校舎屋上に住民等が1,460人避難できるよう整備された。</p>
委員会の ま と め	<p>袋井市では、東海・南海・東南海地震による津波被害等を想定して、さまざまな対策を行っている。民間の施設を利用した避難整備や小学校の屋上に避難のための外階段の整備、きらりんタワーの建設など、避難場所の確保が順調に行われているのが素晴らしく感じられた。</p> <p>岩沼市では、沿岸に高い建物が玉浦小学校と玉浦中学校しかない。千年希望の丘の建設は、15基建設する予定になっているが、まだ6基分の整備計画が認定された状況である。今後は、いち早く蒲崎・寺島地区にも津波一時避難施設及び千年希望の丘等の整備を考えなくてはならないと思われる。また、民間事業者の施設を活用した津波避難施設整備も、工業団地を中心に積極的に進める必要があると思われる。</p>	

II	調査地	愛知県豊川市 人口180,970人 面積160.79km <sup>2</sup> (H25.4.1現在)
	調査月日	平成25年5月22日(水)
	調査事件	商店街活性化事業について
	概要	<p>(1) 地域再生計画(とよかわイナリズム)について 日本三稲荷のひとつである豊川稲荷による『観光のまち』として市内の歴史や文化、それを支える市民活動等を再度見直し、情報発信・まちづくり活動を通じて、観光による交流人口を世界規模で増加させるとともに、定住人口の増加を図っている。</p> <p>(2) 地域資源の活用と地元の取り組みについて 豊川地区は、豊川稲荷の門前商店街だが、近年観光客数が減少していることから「できることから始めるまちづくり」を合言葉に地元商店主を中心とした地道なまちづくり活動が始まり、転機を迎えた。表参道発展会を中心にまちづくりイベント「いなり楽市」を開催したり、まちづくり会社を設立して、まちづくりの拠点として「いっぷく亭」を開店するなど意欲的に活動をしている。また、自発的なまちづくり活動を推進し、門前商店街らしい景観整備を行い、大学や福祉団体等との連携を強め、幅広い層の人々が集い、往年の賑わいの復興を目指している。</p> <p>(3) 市の支援策について 門前商店街整備計画として、「商業地としての活気と表参道としての風格が感じられる和風の街並み」を目標とした土地利用や建築物の立地を誘導しながら、より良い商業観光地の形成を図るとして、平成20年からファサード整備事業として予算化を行い、毎年2軒ずつ整備を進め、現在まで11軒の整備を行っている。</p>
	委員会のまとめ	<p>豊川市では、都市計画に関連し、経済部局の担当者ではなく、建設部局の職員が窓口となり商店主との交流を進め、毎週木曜日に自主的な会議を行い、商店街の繁栄に向けての話し合いを持っている。このことにより、市役所にも建設的な意見を出している。門前町としての景観を大切にするため、市では景観整備の予算を計上して、毎年2軒の整備を行っている。その中で、美術大学と提携して、設計などを学生が行っているのも特色となっている。</p> <p>岩沼市においては、ハード面として、中央通りの電柱を民地へ移設することにより道路の拡幅を計画しているが、今後は、ソフト面においても、職員と商店主との交流の場を随時開催するなどして、お互いの意見交換を率先して進めていくことが大切と考える。</p>

Ⅲ	調査地	<b>愛知県岡崎市</b> 人口378,249人 面積387.24km <sup>2</sup> (H25.4.1現在)
	調査月日	平成25年5月23日(木)
	調査事件	農業振興事業について
	概要	<p><b>(1) 農業支援センターの施設及び事業について</b></p> <p>農業支援センターは、培養技術を活用した優良種苗の増殖・供給をすることで、農家の生産性の向上と経営の安定を図り、地域農家の維持・発展に結びつくように農家の支援を行っている。また、「おかざき農業塾」を開講し、農業に関わりを持つ市民の増加を図り、農業への参入を支援している。そして、気軽に農業を体験できる市民向けの教室や講座、イベントを実施したり、家庭菜園における栽培や病害虫に関する相談も行っている。</p> <p><b>(2) おかざき農遊館の施設及び事業について</b></p> <p>おかざき農遊館は、農業バイオセンター計画の一環で、新鮮な地元農林産物の展示即売を通じて生産者と消費者が相互にふれあい、交流する場を提供するために、平成8年に建設された農林産物展示即売施設となっている。地産地消を推進するため、生産履歴の記帳や農薬の安全使用の指導、定期的な残留農薬検査の実施等により、新鮮で安全・安心できる農林産物を「おかざき農遊館産直部会」が生産して提供している。</p> <p><b>(3) おかざき農業塾について</b></p> <p>「農業を楽しみたい」、「少し本格的に農業をやってみたい」、「栽培技術を学びたい」という市民を対象に、基本的な野菜づくり、土づくりや肥料設計、病害虫防除などを実技や講義などを通して1年間学び、新規の就農者を育てることを目的としている。</p>
	委員会のまとめ	<p>岡崎市で行っている農業支援センターでの事業は、宮城県ならば県レベルの事業で、市独自で行うには非常に素晴らしい施設となっている。</p> <p>おかざき農遊館の施設においては、生産者と消費者のパイプ役として、市民に地産地消として、地元の食材等を安く提供して多くの市民等の集客も盛んであるが、施設の管理運営については、厳しくなっていることが伺われた。</p> <p>岩沼市では、農家の支援対策としてハナトピア岩沼が立ち上げられたが、残念ながら目標が達成されることがなく早々に破綻した。今後、ハナトピア岩沼の管理運営の在り方について、用途変更も含め早急に対処することが必要である。</p>